

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 28 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**  
研究発表報告書

申請者氏名	丸橋 拓海	会員番号	32554
申請者の 所属・職名	徳島大学 先端酵素学研究所 免疫制御学分野 ・ 特任助教		
出席会議名	International Congress of Immunology 2016		
発表論文 タイトル	Context-dependent inhibition of antigen-specific T cell activation by LAG-3		

実施結果:

この度は、平成 28 年前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出して頂き、ありがとうございます。岸本忠三先生をはじめ選考委員の先生方、また本 Award に推薦してくださいました岡崎拓先生に深く感謝致します。

2016 年 8 月 22 日から 26 日までオーストラリアのメルボルンで開催された International Congress of Immunology 2016 に参加し、ポスター発表を行いました。今回の学会では電子ポスターが採用されており、会場のポスターボードに QR コードだけがずらっと並んでいるという不思議な光景に戸惑いました。その QR コードや専用のアプリを介して、携帯やタブレット端末でポスターを閲覧するシステムであったため、同時に多人数を相手に説明するのが難しく、発表者と話をする順番を待つ人の列が散見されました。実際、私自身の発表でも、限られた時間の中では興味を持って来てくれた方全員とは話すことができませんでしたし、自身が興味を持ったポスターの発表者の話が聞けないことが多々ありました。もちろん、空き時間にいつでもどこでもポスターが見られる、アプリを介して気軽に質問ができる、動画が再生できる、など良い面もありましたので、今後の学会では(いつか日本免疫学会学術集会でも取り入れられるのかもしれないですが)、ボードにはいつものポスターを用意しておく、などの工夫が必要であると感じました。

私は抑制性免疫受容体の研究を行っているのですが、関連する演題の多くが Tumor Immunology のセッションの中にあいました。そもそも Tumor Immunology というセッションが毎日のように複数回開催されているということにも驚きましたが、免疫チェックポイントとがん免疫、という流行を感じることができました。私の演題もがん免疫研究者の方や製薬企業の方が興味をもたれていたようで、今後の研究方針を考える良いきっかけになりました。

3年に1度しか開催されない免疫学分野の最も大きな学会である ICI に参加するのは今回が初めてで、免疫学の研究者がこれだけ集まること、そしてそれぞれが最先端の研究を行っていること、を目の当たりにし、普段論文の中で見ていたことを実際に体験できたような気がして非常に刺激的でした。本 Award の受賞を励みに、またこの刺激的な体験を忘れないうちに、早速研究生生活に戻りたいと思います。